

教科の重点 【 音楽 】 科

記号を理解し，読譜力を高める指導の在り方			
	【指導の重点】	【主となる単元】	【記号を理解し，読譜力を高める活動】
中学校	へ音譜表の読譜と他の長調・短調の階名唱に親しみ様々な音楽活動の美しさ、楽しさを味わうことができるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">ハーモニーに美しさ・楽しさ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">リズムパターンで構成する音楽の楽しみ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">フレーズを生かした表現の工夫</div>	<p>音楽記号の理解を図る。</p> <p>読譜に習熟する。</p> <p>常用する音楽記号をはじめ、様々な表現記号を習得し、歌唱や器楽の表現活動に生かす。</p>
小6	ハ長調やイ短調の楽譜に親しみ音程やリズムに気をつけながら視唱・視奏したり拍の流れに乗って曲想を感じ取りながら演奏したりすることができるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">楽譜を読もう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">和音の美しさを味わおう</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・全音符 ・符点二分音符 ・二分音符 ・符点四分音符 ・四分音符 ・符点八分音符 ・八分音符 ・十六分音符 ・連符記号 ・四分休符・八分休符 ・ト音記号・ヘ音記号 ・五線と加線 ・シャープ・フラット ・ナチュラル ・フォルテ ・メゾフォルテ ・ピアノ・メゾピアノ ・ブレス ・二拍子・三拍子 ・四拍子・八分の六拍子 ・クレッシェンド ・デクレッシェンド ・反復記号 ・タイ・スラー ・アクセント ・スタッカート ・テンポ表示記号 <p>以上の音符、休符、記号、音楽に関わる用語を、表現・鑑賞の学習活動を通して、その意味と働きを理解する。</p>
小5	和音の響きの美しさを感じ取って互いの歌声や楽器の音を聴き合いながら全体のバランスに気をつけて演奏することができるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">楽譜を読もう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">和音の美しさを味わおう</div>	
小4	ハ長調の楽譜に親しみ、音程やリズムに気をつけながら階名で視唱したり視奏したりして、読譜に慣れるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">楽譜を読もう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">リコーダーをふこう</div>	
小3	リコーダーに親しみながら、その音色を感じ取ったり、基本的な演奏の仕方を身につけたりできるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">楽譜を読もう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">リコーダーをふこう</div>	
小2	音の高さに気をつけながら階名で模唱や暗唱をして音程感を養うようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">おとのたかさにきをつけてうたおう</div>	
小1	鍵盤ハーモニカに親しみながら基本的な演奏の仕方を身につけることができるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">けんぱんハーモニカをふこう</div>	

音符、休符、記号や音楽に関わる用語の指導に当たっては、単にその名称やその意味をしることだけでなく、表現活動及び鑑賞の様々な活動の中で、その意味や働きを理解したり表現及び鑑賞の各活動に用いたりする。

音符、休符、記号、音楽に関わる用語は、取り扱う教材、内容との関連で必要と考えられる時点で、その都度繰り返し指導していくようにし、6年間を通じた継続的な指導計画に沿って学習を進める中で、音楽活動を通して徐々に身につけていくようにする。

実際の指導に当たっては、児童がその有用性を実感しながら意味や働きを理解することが重要であり、児童の発達の特性や学習状況に配慮しながら、意図的に取り上げるようにする。